

コース概要

武蔵五日市駅【集合】(9時) 9:31発バス⇒坂下バス停⇒秋川導水路
⇒白山神社⇒足瀬土場(対岸)⇒星竹橋⇒星竹集落・神明社⇒
普光寺・愛宕神社⇒旧市倉家住宅⇒五日市交流センター(昼食)⇒
開光院⇒楞巖寺薬師堂⇒北寒寺浄水場跡⇒樽水源地跡⇒
旧青梅道の橋(樽沢)⇒武蔵五日市駅【解散】(15時半)

※徒歩約9km

《ご参加の皆さまへお願い》

- 集合から解散まで統一行動となっています。
- 歩行中は1列または2列で歩き、交通安全に十分ご配慮ください。
- 路傍の野草など、植物を採取しないでください。
- 記録写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設見学等の際にはマスクの着用にご協力をお願いいたします。



市民解説員は、ふるさと“あきる野”を愛し、わたしたちの地域の自然・歴史・文化の再発見につとめるとともに、これを地域みなさんに紹介し、まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。

あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。この美しく恵まれた環境のもとで、地域みなさんと一緒に学びあい、活動できることをうれしく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

大澤 夕希子、戸田正法、中田 美穂子、浅葉三男、内田廉平

【参考資料等】 五日市町史、戸倉村誌、郷土あれこれ、戸倉あれこれ—歴史・民俗・伝説、無漏西游、五日市の石仏、五日市町の古道と地名、地域の皆さんのお話

山沿いの小さな集落を訪ねて

～春の星竹・北寒寺・樽～



小雨の北寒寺集落

2023年4月18日(火)

雨天の場合 4月28日(金)

あきる野市 中央公民館

① 秋川導水路

秋川から取水した水を浄水所に導くための水道施設で、「瀬音の湯」の上流の乙津1号取水所で取水し、戸倉増圧ポンプ所経由で戸倉浄水場まで運ばれている。土地や施設は東京都水道局が所有・管理する。元々は正統時代に水力発電のために作られた施設だった。大正12年～昭和43年頃まで発電所があった場所は、現在「山溪」になっている。

② 白山神社

創建年代は不詳。社伝によると応永元年(1394)11月 加賀国 白山比咩(しらやまひめ)神社を勧請し、長禄3年(1459)戸倉城主小宮上野介憲明が社殿を再建したとある。天正10年(1582)に社殿を改築。もとは白山社と称し、明治維新後に白山神社と改称した。祭神は白山比咩命(しらやまひめのみこと)。

③ 土場と筏流し

秋川流域では江戸中期から大正末期まで川を利用する筏流しが盛んに行われており、山で伐採された木材は筏に組んで多摩川河口近くの六郷まで運んだ。岩の多い上流から「管流し」といって1本ずつ流された木材を、広い河原に集めて筏に組んだ場所を「土場」と呼ぶ。幕末には星竹集落に、足瀬・田尻・どうかん・おくめ淵・行瀬(ゆきぜ)の5つの土場があった。明治の頃には、落合から山田の堰の間に20数か所の土場があった。筏流しは秋から春まで行われた。

④ 星竹橋

現在の場所に橋ができたのは明治42年頃。それまでは少し上流側に、11月1日から4月1日までの間、岩に板を渡して仮橋を架けた。橋の両側には地藏尊が建ててあり「橋場の地藏」と呼んでいた。昭和46年に現在のコンクリート製の橋に架け替えられた。



● 星竹集落

旧戸倉村の小字で、元は「星嶽」と書いた。川岸の小高い段丘が「フシ」。けわしい崖の小高い地形なのでフシダケと呼び、それがホシダケに転訛したのではないか。昔は2つの沢に挟まれた神明社周辺の地域だけを星竹と呼んだという。

⑤ 星竹神明社

星竹集落の中央にあり、かつては鎮守の杉林があって「森」と呼ばれた。創立は未詳だが、社伝によれば、桓武平氏の後胤・山下主殿邦広の二男 宗内義親が永享4年(1432)本村に住み着き、翌年当社を祀り星竹の産土神としたという。祭神は天照皇大神。「嵐除け」と呼ばれる星竹の獅子舞は、9月第1土曜日の星竹八雲神社例大祭に神明社境内で舞われる。

⑥ 福王山 普光寺

臨済宗建長寺派、本尊は十一面観音。星竹の山下五郎右衛門、黒山太郎左衛門の両人が発起人となり、文明2年(1470)に堂宇を建立、光厳寺十七世大樹存松禅師を開山に迎えたという。明治維新後一旦廃寺としたものの、明治16年(1883)に再興した。

⑦ 旧市倉家住宅

江戸時代末期の文政9年(1826)に建てられた茅葺き古民家。気候・風土や生業など、地域の歴史的環境をよく伝える一般的な四間型民家で、2階は養蚕室。平成12年(2000)に市に寄贈され、北寒寺地区から五日市郷土館西側に復原移築保存された。市指定文化財。

⑧ 幽遠山 開光院 【あきる野百景】

臨済宗建長寺派の寺院。創建は室町時代中期の文安5年(1448)で、開山は広徳寺二世江印和尚の実弟咒嶽珊(じゅがくさん)禅師、開基は刀鍛冶の入野宗真。太田道灌は中興開基とされる。ご本尊は獅子に乗り右手に剣、左手に経巻を持つ文殊菩薩で、不動明王・毘沙門天の両脇侍を擁する。本堂・庫裏は市指定文化財。

● 北寒寺集落

琴平神社のある金比羅山(468m)への南の登り口にあたり、10戸ほどの家が古くから続く。地名の由来はよくわかっていない。郷土館西側にある旧市倉家住宅はこの地から移築された。

⑨ 佛頂山 楞嚴寺 薬師堂

創建は文明8年(1476)、薬師如来を安置して念仏堂竜言庵を建てたのが始まり。開山は開光院の龍翁虎禅師。承応2年(1653)に新築したという本堂・庫裏は、老築化して昭和40年に取り壊され、現在は享保18年(1733) 建立の薬師堂のみが残る。薬師如来守護神の十二神将立像は市指定文化財。

⑩ 北寒寺浄水場跡

樽沢の水をここまで引いて浄水し、大正14年(1925)から五日市五町内に給水が始まった。それまでは井戸や沢水を汲んでいたので、水不足や疫病に悩まされていた。数年で樽沢では供給水量不足となったため、秋川水力発電の電力を使って秋川本流から約1キロ先のここまで吸い上げて利用した。

● 樽集落

旧入野村の、金比羅山の東の麓にある集落。タルは「垂る」で、水の湧き出る、したたり流れる所などの意味。周辺には石灰岩の露頭がいくつかあり、かつては石灰岩採掘が行われていた。

⑪ 樽水源地跡

五日市最初の水道の水源地となった場所。現在はここから取水していない。この先の林道沿いはジャガの群生地。林道終点から山道を少し行くと、金比羅山への登山道に出る。

⑫ 旧青梅道の橋（樽沢）

五日市と青梅を結ぶ青梅古道の、樽沢にかかる無名の橋で建設時期の表示もないが、皇国地誌(明治21年)の五日市村の項に出てくる上権田橋と思われる。古道は小倉の台地を越え、まいまい坂で三内川を渡って北側の小机台地に上がり、ぐみの木峠を越え、大久野の幸神(さじかみ)に出た。